

大好き！絵本

初瀬 恵美



『おひさまのたまご』
作・絵
エルサ・ベスコフ
訳:石井登志子
出版社:徳間書店

私はスウェーデンの絵本作家エルサ・ベスコフ(1874~1953)が大好きです。彼女の絵本は、素朴で美しい自然にあふれ、そこで暮らす人間や、小人、妖精、小動物などの物語がまるで、宝箱のように詰まったようです。

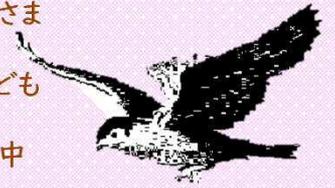
その中から今月は『おひさまのたまご』を紹介させていただきます。私はこのワクワクするような楽しいタイトルも大好きです。

あるひ、ようせいが もりのたんけんをしていると、こけのうえに おおきな だいたいいろの まるいものが おちていました。妖精はそれを「おひさまのたまご」と思い込み、みんなに見せに行きました。ところが、それを見た友達は「たまごのなかは、もちろん ひが もえているんだよ。いいかい、おひさまの なかだつて、ひが めらめら もえているんだから」といいます。するとふくろうが「ホーツ、

ホーツ、そのうちに もりは ひのうみさ」とさわぎます。ねっこじいちゃんは「こりゃ、たいへんだ。ただちに とめなくてはならん。」とあわてはじめました。さてこれは、本当におひさまのたまごだったのでしょか!?

ちょっとハラハラドキドキあり、笑いありのストーリー。少し長めのお話ですが、子どもをひきつける魅力ある絵本だと思います。

先日子どもたちと絵本を読んでいたときの事です。「カエル」に夢中の男の子が、中表紙の挿絵のカエル(下絵)を見つけて、この絵本に興味をもちました。タイトルの下にあったこの絵は、どんなシチュエーションなのか、どんな関係性なのかとても気になる挿絵でした。だからこそ、興味を持ち、とっても絵本の世界を楽しんでいました。



その絵の意味が分ると、これまで と違った世界がまた広がって、さらにこの絵本が好きになったようでした。

一緒に読んでいた私も、全く予想していなかったシチュエーションにエルサの持つ世界観がますます大好きになりました。みなさんもぜひ素敵なエルサの世界を味わってみてください。

